

令和5年度 倫理委員会案件

令和6年3月31日時点

受付番号	承認日	申請事項	申請者		概要
			職名	氏名	
R5-1-1	令和5年7月10日	「クロザリル療法における薬剤師の役割」について学会発表	主任 (薬剤師)	高井 英里	第18回兵庫県立病院学会（令和5年9月9日）にて発表。 治療抵抗性統合失調症治療薬であるクロザリルを安全かつ効果的に使用するため、薬剤師による確認体制を確立し、新たに副作用への対応として、血中濃度測定の内院体制を構築したことについての発表。
R5-2-1	令和5年7月18日	「生きづらさを抱え飲酒が生きがいと語るアルコール依存症者への作業療法－事例報告－」について学会発表	職員 (作業療法士)	名畑 太貴	第57回日本作業療法学会（令和5年11月10日～12日）にて発表。 「飲酒が生きがい」と語り、飲酒以外の活動に魅力を感じられず生活が破綻していた対象者について、作業療法により飲酒以外の活動を通して様々な気づきを得てもらうことにより生活の再編を図っていった経過および考察についての発表。
R5-3-1	令和5年7月19日	「長期入院患者の希望に注目した介護介入」	職員 (看護師)	堤 光	日本精神科看護協会兵庫県支部 看護研究発表会にて発表。 粗暴行為で行動制限を繰り返している長期入院患者に対して、本人の希望を確認しながら定期的な院外外出を実施した結果、セルフケア不足の改善がみられた。 外出支援を含めた看護介入を振り返り、介入前後の患者の変化についての発表。
R5-3-2	令和5年7月19日	「児童思春期精神科に勤務する新卒看護師の看護実践におけるやりがい」	職員 (看護師)	高尾 真由	日本精神科看護協会兵庫県支部 看護研究発表会にて発表。 児童思春期精神科看護師は、治療上の独自性を求められるが、専門的知識や臨床経験の少ない新卒看護師は困難感を感じやすい状況にあると推測される。そこで、看護実践におけるやりがいを質的に明らかにするため、インタビューガイドを用いた半構成的面接によって分析した結果についての発表。
R5-3-3	令和5年7月19日	「感情表出が少ない患者との関係構築」	職員 (看護師)	横田 いぶき	日本精神科看護協会兵庫県支部 看護研究発表会にて発表。 不安や緊張が原因と思われる身体症状が表れ、感情の言語化が難しい患者に対して、特性に配慮し「心と体のチェック表」を用いて関わることで感情の表出ができるようになった経過および退院後の継続支援方法にかかる課題についての発表。

受付番号	承認日	申請事項	申請者		概要
			職名	氏名	
R5-4-1	令和5年11月30日	「Significance of understanding subjective health condition during collaborative activities for persons with severe schizophrenia」(日本語訳) 「重度統合失調症者に対して共同作業時に主観的健康状態を把握することの意義—事例報告」について学会発表	課長補佐 (作業療法士)	大島 久典	第8回アジア太平洋作業療法学会（令和6年11月6日～9日）にて発表予定。 重度統合失調症者に対して、共同作業時に主観的健康状態を把握する意義について発表予定。
R5-5-1	令和5年12月1日	急性期統合失調症患者に対し自己にて活動と休息のバランスを取ることを目的に、作業機能障害に着目し介入した—事例について	職員 (作業療法士)	森川 梨菜	神戸東・阪神地区精神科現職者共通研修 事例検討・事例報告（令和5年12月15日）にて発表。 急性期統合失調症者に対して、作業機能障害に着目した介入を行った結果、自己にて活動と休息のバランスを取ることが出来た症例についての発表。
R5-6-1	令和5年12月11日	自閉スペクトラム症のある人とその家族、そして作業療法士への「短い質問」調査について	主査 (作業療法士)	大石 麗奈	自閉スペクトラム症のある人とその家族、担当作業療法士を対象にしたアンケート調査。 自閉スペクトラム症者および家族が意図する目標と作業療法士が設定する作業療法の関係を明らかにする目的で行う。 ※県立広島大学および東京都立大学それぞれの倫理審査承認済み。
R5-7-1	令和6年1月19日	日本作業療法士協会事例報告登録への応募について	課長補佐 (作業療法士)	大島 久典	日本作業療法士協会 事例報告登録への応募。 重度統合失調症者に対して、主観的健康状態に配慮しながら就労を支える精神科訪問作業療法についての報告。
R5-8-1	令和6年2月27日	「統合失調症患者の主観的健康状態評価をもとに訪問作業療法介入をする意義」について学会発表	課長補佐 (作業療法士)	大島 久典	第58回日本作業療法学会（令和6年11月9日～10日）にて発表予定。 統合失調症患者の主観的健康状態評価をもとに訪問作業療法介入する意義について、複数事例をもとに発表予定。